

オアシスだより



第17号

平成25年9月2日発行

オアシス第一病院
副院長 鳥島竜太郎

有料老人ホーム オアシスホーム2

部署紹介・その16

オアシスホーム2は8月より、高齢者賃貸住宅から住宅型有料老人ホームになりました。部屋数も41室47名の入居ができるようになりました。職員は現在9名おり、夜勤は2名の体制で行い、入居者の方のお世話や部屋の掃除、シーツ交換、食事の介助、オムツ交換等身体介助や生活部分全ての事を毎日行っています。

希望があれば、眼科等の受診や買い物も有料ではありますが、職員が同行することも出来ます。

体調がおかしいと気付いたり、訴えがあった時は看護師に連絡し医師に伝えてもらい、早急な対応が出来る様な体制をとっています。

入居者の方が安心して毎日を過ごせる様、お手伝いや見守り、介助をし、ご家族にもご満足頂けるようなオアシスホーム2にしていきたいと思っています。

職員一同、力を合わせて日々努力いたします。

オアシスホーム2主任
田中 みき子



ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）感染胃炎の治療について

1.ピロリ菌とはなんですか？

人の胃の中に住む細菌（グラム陰性桿菌）です。子供の頃に感染し、一度感染すると除菌治療（細菌を駆除する治療）を行うか、胃炎が進行して、細菌が生息しにくい環境になるまで生息し続けます。正確な感染経路はわかりません。

2.ピロリ菌は胃癌の原因でしょうか？

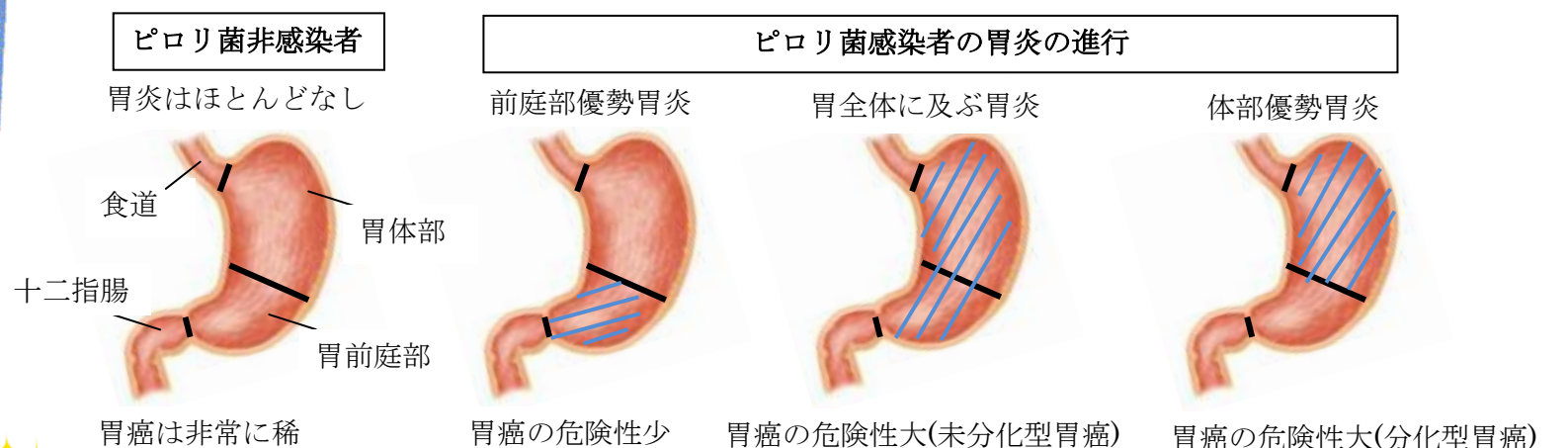
多くの胃癌は、ピロリ菌感染による胃炎を背景として発生すると言われています。またWHOは、ピロリ菌は胃癌の発癌因子である、と認定しています。

3.慢性胃炎は老化現象でしょうか？

従来、加齢現象とされていた慢性胃炎の進行は、ピロリ菌感染者のみにみられる現象であることが判明しています。ピロリ菌の感染がなければ、高齢者においても慢性胃炎を認めません。一方感染者では、加齢とともに慢性胃炎の程度が、進行してきます。

4.ピロリ菌感染による胃炎はどのように進行するのでしょうか？

ピロリ菌感染による慢性胃炎の自然経過は、胃炎が前庭部（胃の奥の部位）から胃体部（胃の真ん中の部位）へと拡がり、胃粘膜に萎縮性変化や腸上皮化生（胃の粘膜が腸粘膜の様に変化する）が出現し、この経過中に胃癌等の種々の疾患が発生すると考えられています。ただしこの様な慢性胃炎の進行速度は、同じ感染者でも環境因子等により大きく異なります。



(図 ピロリ菌感染と胃炎パターンと胃癌危険性との関連)

5.胃炎の進行部位によって胃癌の危険性は異なりますか？

前庭部までの胃炎と比べ、胃炎が胃全体に及んだもの、胃体部の胃炎が強いものは、胃癌の危険性が15.6倍、34.5倍高くなると言われています。

6.ピロリ菌感染した胃炎は健康保険で治療できますか？

平成25年2月から治療できるようになりました。3種類の内服薬を1週間内服していただきます。

7.ピロリ菌の治療が成功した場合胃癌の危険性はなくなりますか？

残念ながら治療が成功しても、胃癌抑制効果は完全なものではなく、危険性は1/3に低下すると考えられています。

お問い合わせ
医療法人善昭会

オアシス第一病院

〒870-0103 大分市東鶴崎3丁目3-19

電話 097-527-2211 Fax 097-522-0511

